



◇氏 名：濱口 功聖
(はまぐち こうせい)
◇出 身：福岡県
◇出身校：九州産業大学付属
九州高等学校 (アビスパ福岡U18)
◇ポジション：DF
◇加入クラブ：
鹿児島ユナイテッドFC(J3)

鹿屋体育大学サッカー部所属の濱口功聖さん(スポーツ総合課程4年)が、Jリーグの鹿児島ユナイテッドFC(鹿児島U)へ2021シーズンより加入することが内定しました。また日本サッカー協会より「JFA・Jリーグ特別指定選手」として認定され、本学サッカー部に所属しながら鹿児島Uの公式戦にも出場可能となります。

今シーズン、同大学から特別指定選手は湘南ベルマーレの根本凌さん(同2年)、大分トリニータの藤本一輝さん(同4年)に次いで3人目。また濱口さんは、鹿児島U初の特別指定選手となります。

福岡県福津市出身の濱口さんは戦術理解とディフェンス能力に優れたセンターバックで、高校時代からアビスパ福岡U18

鹿屋体育大学の濱口功聖さん 鹿児島ユナイテッドFCに加入内定



編集・発行／公益財団法人 鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
〒891-2393 鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学内
0994-46-4827 (直)
編集兼発行人 風呂井 敬

この研究は、1980～1990年代に日本スピードスケートナショナルチームのヘッドコーチをしていた入澤孝一氏(現高崎健康福祉大学教授)から、田畑教授がいくつかのインターバルトレーニング法について効果の検証を依頼されたことがきっかけでスタートしました。1989年、田畑教授は当時鹿屋体育大学大学院修士課程の2年生だった萩田教授らゼミ生とともにそのトレーニング法に関する検証を重ね、ついに高強度・間欠的トレーニングの科学的有効性を実証し、その成果は田畑教授によって

鹿屋体育大学の教員で一期生の卒業生でもある萩田大教授が、公益財団法人日本スポーツ協会の「秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞」を受賞しました。この賞は「スポーツ医・科学についてよく研究し、その研究成果が十分にスポーツの現場に活かされ、我が国スポーツの普及発展又は競技力の向上に顕著な実績をあげた者またはグループ」に与えられます。萩田教授は今回「高強度・間欠的トレーニング(HIIT)研究開発グループ」の一員として受賞しました。グループの代表は、かつて本学に在籍し、現在は立命館大学で教鞭を執る田畑教授です。



3月に予定されていた表彰式と受賞祝賀会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、このほどようやく賞状が届きました。萩田教授は「研究結果が実験室にとどまるのではなく、世界の現場の人たちに活用され、メダル獲得に貢献できたことはとてもうれしいです。そのような研究に携われたことを光栄に思います。バトンを渡す教え子たちには、タバタ・トレーニングを超える研究開発をしてほしいです」と喜びと期待を述べました。

報告を受けた松下雅雄学長は「最初から賞狙いで研究をしているわけではないので、やってきた結果がたまたま成果に結びついたということは研究者冥利に尽きると思いますが、チャンスはみんなにあるけれど、しっかりとつかんでいくのが能力であり、実力。萩田教授の若い頃からの努力の積み重ねが今回の賞に結び付いたのだと思います」と受賞をたたえました。

夏頃には終息すると思われていた新型コロナウイルスの感染拡大はとどまることを知らず、一向に終息の目処は立っていない。「三密を避ける」、マスクの着用、大学での遠隔授業などの「新しい生活様式」は、一年前には想像がでなかった。が、今では確かに定着している▼コロナ禍の影響を受け、感染拡大防止の観点から本学の蒼天祭の中止が決定された。関係者のご苦勞は察するに余りある。果たして、いつまでコロナ禍の影響は続くのか▼一方で、季節は確実に巡ってくる。猛暑、酷暑と言われた夏も過ぎ去り、9月中旬には蝉の声も遠のき、彼岸花が畑やあぜ道の脇に忽然と現れる。そして人々は衣替えをし、木々の葉も色づき、秋は例年のように深まっていく▼ふと通勤路の脇を見ていると、色々なキノコが発生していることに気づく。山道を歩けば、その脇にも色とりどりのキノコでにぎわっている。松林にはアミタケという汁物に合うおいしいキノコもあれば、テングタケのような猛毒キノコもある。おいしそうに見えても毒キノコかもしれない▼キノコの写真を撮る際は、どのような植生で生えていたのかを分けるように、まずは背景を撮る。次に傘の部分、裏返してヒダの様子を撮る。野生キノコは基本的に食べられないと考え、採取しても決して自己判断せず、詳しい人に確認することが肝要だ。(Y・I)

英文論文にまとめられ、1996年と1997年にアメリカスポーツ医学誌に発表されました。20秒の運動を10秒の休息を挟んで8セット繰り返す、わずか4分間のインターバルトレーニングですが、これは有酸素性および無酸素性エネルギー供給系の両方に最大限の負荷を与えられる希有なプロトコルです。このトレーニング法は、のちに「タバタ・プロトコル」または「タバタ・トレーニング」と呼ばれるようになり、はじめは海外で火が付き、その後、逆輸入という形で日本中に普及していきましました。実に30年の歳月を経て、今回の賞に結びついたことになりました。

鹿屋体育大学の萩田太教授が 第22回秩父宮記念スポーツ医・科学賞「奨励賞」を受賞！

ミズノスポーツ振興財団は、
スポーツの振興・普及を目指し、
スポーツを愛する人たちを応援しています。

2020年
ミズノスポーツ振興財団は、
創立50周年を迎えました。

卒業生インタビュー



株式会社 Rockin'Pool
代表取締役
17期生 西川 隼矢さん

【プロフィール】
にしがわ・じゅんや。昭和57年5月、香川県丸亀市生まれ。平成16年鹿屋体育大学体育学部体育・スポーツ課程卒業。200m自由形でアテネ五輪代表選考会に出場。香川県記録更新（10年間保持）。水泳のインストラクター、システムエンジニアを経て、平成22年からプール専門の水中フォトグラファーとして活動を始める。平成27年7月、株式会社Rockin'Poolを設立し、代表取締役に就任。

「泳ぐだけがプールじゃない」
コロナ禍に負けないアイデアマン

コロナ拡大で縮小を余儀なくされた最たるものの、それがスポーツ業界だろう。その中で、飛ぶように売れたのがプールマスクマンと呼ばれるビニール製のマスク。水泳教室で水に浮かぶ子どもたちとインストラクターの距離は近い。「何か口を覆うものが欲しい」という現場からの要望に応え、試行錯誤の末に作られたのがこのマスクだ。指導者が大きな声で呼びかけても、呼吸の飛沫がプールの中で他の人に直接かからないのはもちろんのこと、これを着用したまま四泳法で泳いでもずれずにお手本を見せることができるという。YouTubeやテレビの番組でも取り上げられ、今では大手のスポーツクラブの水泳インストラクターはほとんどといっていいほど着用している。その発明者が西川隼矢さんだ。

西川さんは鹿屋体育大学の水泳部ではアテネ五輪の金メダリスト柴田亜衣さんと同学年だった。西川さんは自分自身を「思っていることをすぐ口に出してしまうタイプで、コーチの指導におとなしく従う選手ではなかった」という。鹿屋のプールで鏡を見ながら自分の泳ぎをチェックして自分流の泳ぎを追求することが好きだったそう。

大学で印象に残っているのは田口信教授の授業だった。田口教授はミュンヘンオリンピックで平泳ぎで金メダルを獲得したことで知られているが、実は水泳の実力だけではなく、その後の人生でも多くのアイデアを花咲かせている。私自身、40年ほど前、大学ができて間もなくの頃、田口教授のアイデアで作られた低圧の流水プールや、光るベースメーカーを底につけたプールなどをニュース番組で取材をした。

映像が、カメラで切り取った瞬間に見違えるようなアートになっていたり、子どもたちの水中での表情が見たことのないような笑顔だったりと、プールを単なる泳ぐだけの場所にしていくのはコストパフォーマンスが悪すぎると思え、まず取り掛かったのが、プールに浮かべてエクササイズをする「プールノ」というボードの製作と販売だ。水上で行うエクササイズとプールエクササイズといったらわりやすいだろうか。水の上で揺れるボードの上で行うエクササイズでインナーマッスルが鍛えられ、さらに重心に返って来しめると好評で、今では多くのスポーツクラブに取り入れられている。バランスを崩しドボンと水の中に入れたという。それを聞いた西川さんは、「特許をとることはハードルが高くない、いつかは特許をとれるようになる」と強く思うようになった。田口教授の授業で、西川さんは自分のアイデアを形にしていこうと面白さを心に植え付けられた。

西川さんは大学卒業後、スポーツクラブの水泳インストラクターを経験。もともと稼ぎたいと3年後にはシステムエンジニアの仕事をゼロから始め、その後脱サラをして自分の会社を設立。苦しい時はアルバイトを掛け持ちしながらも、あふ



※西川さんへのインタビューは動画でも配信されています（<https://theclubtv.jp/>）。

るプール愛を抑えきれず、様々なアイデアマンの表現が実現してきた。プールを単なる泳ぐだけの場所にしていくのはコストパフォーマンスが悪すぎると思え、まず取り掛かったのが、プールに浮かべてエクササイズをする「プールノ」というボードの製作と販売だ。水上で行うエクササイズとプールエクササイズといったらわりやすいだろうか。水の上で揺れるボードの上で行うエクササイズでインナーマッスルが鍛えられ、さらに重心に返って来しめると好評で、今では多くのスポーツクラブに取り入れられている。バランスを崩しドボンと水の中に入れたという。それを聞いた西川さんは、「特許をとることはハードルが高くない、いつかは特許をとれるようになる」と強く思うようになった。田口教授の授業で、西川さんは自分のアイデアを形にしていこうと面白さを心に植え付けられた。



Exceedを開発した鹿屋体育大学の高井洋平准教授とダンスのバリエーションを考案した同大学の梅子か子講師



動画撮影収録の本番に向けてリハーサルに励むダンス部の学生

鹿屋体育大学開発の「Exceed（運動の種）」 11月からKKBのアプリ「KAPPLI」で配信

子どもたちの体力・運動能力の低下が叫ばれている今日、それに歯止めをかけようと、鹿屋体育大学とKKB鹿屋放送が新たなプロジェクトをスタートさせました。

「Exceed（エクシード）」とは、運動を表すエクササイズと種を意味するワードを組み合わせた造語。「種から苗を育てるように、運動の種を蒔き、子どもの頃から自然と運動に親しみ、未来のアスリートが芽吹いてほしい」という想いを込めて、鹿屋体育大学の高井洋平准教授が名付けた。

高井准教授が協力校である鹿屋市の小学校教員にリサーチしたところ、1日5分ぐらいであれば全国の学校で運動を取り入れる時間が確保できるのでは、との意見が多かったことを受けて、高井准教授の長年の研究の蓄積を形にしたのがエクシードです。エクシードには「走る」「跳ぶ」などの基本的な動きが盛り込まれている。高井准教授は「いろいろなバリエーションがあり、頭が混乱することもあるけれど、エクシードが楽しんでもらえることができれば、達成感がある」と話している。

鹿屋市で次郎にあるKKB鹿屋放送のスタジオで収録に臨んだ同大学ダンス部の学生6人は、収録後に「テレビ局での収録というめったにない貴重な機会をいただき、普段とは違う緊張感がありましたが、最後まで全員一丸となって頑張ることができました」と話している。

「Exceed」はシンガーソングライター、Yunicaさんが作詞作曲した「僕は今、青になる」の曲に乗せて、ハードの3段階があり、11月9日からKKB鹿屋放送の動画アプリ「KAPPLI」で随時配信予定です。

感あふれる笑顔でコメントしました。

「5分でも効果があることは研究で実証済みです。子どもたちの運動習慣が大人になっても影響すると言われているので、生涯を通して続けられるような文化に育てば、何歳からでも効果は期待できるので、運動の種が全国に広がってほしい」と高井准教授も今回のコラボに期待を寄せています。

kotobuki Driving School

自宅・アルバイト先 ← DIRECT! → 自動車学校 ← DIRECT! → 学校・寮

★その日のスケジュールに合わせて1時間おきにダイレクト送迎
忙しい学校生活の強い味方です!!

★提携会社による分割払いも月々5000円からご利用になれます

心豊かな車社会を願う
寿自動車学校

ご予約・お問い合わせ **TEL 0994-43-2627 E-mail: info@kotobuki-ds.jp**

〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-13-30 県公安委員会指定教習所[技能試験免除]
ホームページURL <http://kotobuki-ds.jp>

株式会社 三木商会

<http://www.mizuho.kubota.ne.jp>

〒893-0009
鹿児島県鹿屋市大手町12番1号
TEL (0994) 43-4178
FAX (0994) 44-9371

【営業所】
鹿屋・高山・志布志・岩川・
牧之原・野方・垂水・大根占

**汲取の御注文
浄化槽の管理**

N

水質安全に
全力投球

鹿屋市許可 株式会社 西日本浄化サービス

代表取締役 田中ふみ子
鹿児島市王子町4531-2
TEL (0994) 43-3425

あなたの町に、レモンガス

**株式会社レモンガスかこしま
鹿屋支店**

鹿屋市大浦町11423番地1
0994-42-2181



◆ごあいさつ

◆よろしく願います



スポーツ人文・応用社会科学系
准教授 山本 一生



学術図書情報課研究支援係
田之上 桃子

9月1日付で准教授として着任した、山本一生（いっせい）と申します。出身は千葉県ですが、両親は九州の出身なので、鹿児島の本学に着任したことに縁を感じています。

10月1日付で学術図書情報課研究支援係に配属になりました田之上桃子と申します。出身は垂水市で、高校から大学まで鹿児島市に通学しており、10月からは鹿屋市に通勤する生活となりました。鹿屋の豊かな自然の中で学生の皆様の活気にあふれる鹿屋体育大学で勤務できますことをとてもうれしく思います。

早稲田大学第一文学部で歴史学を学び、東京大学大学院教育学研究科で教育史を専攻しました。現在は20世紀初めの中国山東省青島の日本人教育と、中国人教育の歴史を研究しております。前任校は長野県の上田女子短期大学で、中学国語の教員免許を取得するための教職課程（主に「教育原理」など）を担当しておりました。また、山に囲まれた職場だったので、山菜やきのこ狩り、家庭菜園を学生としておりました。

私は、幼い頃からピアノや吹奏楽など所謂「文化系」と言われる部活動を経験してきており、体育大学とはあまり結びつかないように思われますが、スポーツと音楽は、上達を目指して日々鍛錬を積み重ねるという点で似ているように感じます。今はまだ経験も浅く、新たな環境に慣れることに精一杯ですが、周りの方々から多くのことを吸収し、1日でも早く鹿屋体育大学の一員として、学生の皆様や教職員の方々の一助となれるよう日々精進してまいります。

本学では主に「学校と教育の歴史」といった教職課程科目を担当します。前職での教育経験や山活動の経験を活かして、学生指導につなげていければと考えております。

至らない点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

鹿屋体育大学カヌー部 全日本インカレ2種目優勝！



9月18〜22日に石川県小松市の木場潟カヌー競技場で行われた第56回全日本カヌー学生選手権大会において、鹿屋体育大学カヌー部の橋沼新さん（スポーツ総合課程2年）がカヤックシングル200mで優勝、田中智貴さん（同2年）と岩永紘明さん（同1年）のカナディアンペア200mが優勝、男子がカナディアン部門で2位、総合成績で3位に輝きました。

——橋沼新さん

「今持っている実力を発揮し、優勝でき安心していきます。自分だけではここまで成長することができなかったと思います。支えてくれた方々、応援してくれた方々本当にありがとうございました。」

——田中智貴さん

「実力を発揮し、優勝す

鹿屋体育大学陸上競技部 日本インカレ3種目で優勝！



9月11日〜13日、新潟県デンカビッグスワンスタジアムで開催された天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権大会（通称・日本インカレ）において、鹿屋体育大学（スポーツ総合課程3年）が男子1500m、中島紗弥さん（同3年）が女子5000m、山本

渚さん（同4年）が女子走幅跳で1位に輝きました。その他の種目でも5名が入賞し、素晴らしい成績を残しました。優勝した3人のコメントは次のとおりです。

——小林青さん

「ずっと目標にしていた大会で優勝できたのはうれいです。これに満足

——中島紗弥さん

「今回の大会では1位を勝ち取ることができました。10月と同じ会場で行われるので、優勝争いができると思います。応援がサポートありがとうございます。」

——山本渚さん

「大学最後の年に目標としていた優勝をすることができてうれしいです。今後も優勝争いができると思います。応援がサポートありがとうございます。」

課外活動団体紹介



ヨット部

ヨット部は現在16名の部員が榮樂先生の指導の下、本学の施設である海洋スポーツセンターで練習を行っております。まずヨットという乗り物で想像できるものは、クルーザーなど大きな船だと思います。しかし大学生が使っているヨットは全長が4.7m程の国際470級、スナイプ級です。一昨年末までは部員が少なかったためスナイプ級の片クラスでしたが、昨年より470級、スナイプ級の両クラスを組めるようになりました。ヨットレースは沖合いに設置されたマークを規定の順に回り着順を競う競技です。海で行う競技のため風速・風向、潮流が大きく関係し自然環境に対応しながらコース展開を組んでいきます。自然を相手にして競技をするため、レース会場によって風の入り方や潮の強さが違ってきます。そのため大会の日は前入り期間というものがあり、その場の風の傾向などを調べたりします。

しかし風を読むだけではトップを走ることはできないため、スピードに繋がるハンドリングなど技術面の向上も欠かせません。それらを強化するためには海での練習時間を多く取ることが重要だと思い、日々海洋スポーツセンターでの練習に励んでいます。

国道沿いに鹿屋体育大学の案内看板

鹿屋体育大学をご支援くださる地域の方のご厚意で、「エイブル鹿屋西原店」「ホテルセントロ鹿屋」2社のご協賛をいただき、大学最寄りの国道交差点に案内看板が設置されました。このことにより、大学正門への誘導がわかりやすくなりました。



「一般」
中村 聡様（五万円）
ありがとうございます

「視覚」「触覚」が「記憶」に残る
SUGOHAKU
【厚盛デジタル加飾システム】
印刷物へ新たな付加価値を
厚盛クリアリスの上に箔を加飾することで、盛り上がった立体的な箔加工が可能になりました。
従来の箔押しと一線を画したグラマラス感のある仕上がります。

パッケージ・パンフレット・ポスター etc.に、ご利用いただけます。

TO OUR Welcom

厚盛デジタル加飾により盛り上がった箔加工

厚盛クリアリスによるリアルなテクスチャー感

ヒューマン印刷に特化する
株式会社 新生社印刷
鹿児島県鹿屋市礼元1丁目22-34
TEL 0994-43-2238
URL http://www.shinsei-p.co.jp E-MAIL kan@shinsei-p.co.jp

お気軽にお問い合わせください。

まっすぐに。正直に。
大波酒造株式会社
〒893-0016
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号
電話(0994)44-2190 FAX(0994)40-0950

〇飲酒は20歳になってから。
〇飲酒は楽しく、適量を。
〇妊娠中、授乳期の飲酒はお控え下さい。
〇飲酒運転は法律で禁止されています。

鹿屋体育大学と鹿屋市との連携協議会を開催

8月27日、鹿屋市役所において鹿屋体育大学と鹿屋市の連携協議会が開催されました。本協議会は、相互の人的・知的資源の交流・活用を図り、緊密な連携・協力関係の構築を目的とした協定に基づき毎年開催しており、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で開催されました。

協議会の冒頭で、中西茂鹿屋市長より豪雨災害に伴う学生の災害ボランティアへの協力についてお礼の言葉が述べられ、延期となった東京2020オリ



協賛会では、ホストタウンとの交流やBlue Winds事業等、鹿屋体育大学と鹿屋市で行っているさまざまな連携事業については例年通りの事業の実施が困難ではあるが、安心安全に考慮しながら実施することが確認されました。また、新たに鹿屋市が検討している連携事業について、積極的な意見交換が行われました。

公開講座「KIDSのための楽しいマリンスポーツ」夏休み最後の思い出を作ろう！開催

鹿屋体育大学では4月に新型コロナウイルスの感染予防で中止した公開講座「少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ」に代わる企画として、予防策を考慮したうえで8月25、26日の2日間、「KIDSのための楽しいマリンスポーツ」夏休み最後の思い出を作ろう！を開催しました。2日間ともあいにくの天気となりましたが、鹿屋島県内の小学校3年生から6年生まで16名が参加、天候を見ながら海に繰り出し、初日は水慣れ、スノーケリング、SUP（スタン



ドアップパドルボード）などマリンスポーツ体験を、2日目はスノーケリング、SUP（スタン

鹿屋体育大学令和2年度前期末学位記授与式を挙行

鹿屋体育大学では9月17日に、令和2年度前期末学位記授与式を挙行しました。今回の対象者は3名でしたが、そのうち出席できたのは論文博士学位記を取得したイオニアス・ヨルギオス・フダラキスさん1名で、松下雅雄学長から「本学で学んだことを活用しながら、頑張ってください」とはなむけの言葉が贈られました。

ギリシャ国籍の国費留学生として修士課程及び博士後期課程の5年間を同大学山本正嘉教授の下で学んだフダラキスさんは、令和2年3月に満期



た。山本先生から教わった選手一人ひとりにあつたトレーニングを丁寧に考えること。次の研究や将来の研究へも引き継げるような細やかな分析や記録にすることを今後頑張ります」と感謝の気持ちと今後の抱負を述べました。

公開講座「市民のためのテニス教室」開催

鹿屋体育大学では10月1日から毎週月・木の19時から21時まで、公開講座「市民のためのテニス教室」を全10回の日程で開催しました。さわやかな秋風を浴びながら13歳から81歳まで、老若男女45人が同大学のテニスコートに集いました。

講師は鹿屋体育大学の高橋仁大教授と村上俊祐助教の2名の教員に、課外活動を終えたテニス部の学生数名が加わり、熱心に指導しました。参加者の前田開三さん（61）はもともとはソフトテニスの経験者。「息子が硬式テニスをやっているの



で私も硬式を始めてみようかと思って参加しました。鹿屋体育大学の先生が二人もついでくださり、テニス部の学生さん

新型コロナウイルス感染症対策のもとで後期授業がスタート

鹿屋体育大学では10月2日から後期授業がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の影響も懸念される中、後期授業の開始にあたり、教員へのアンケート結果も参考にしつつ、慎重に対応策を検討しました。その結果、前期に引き続き、体調管理の徹底、手指・用具の消毒、教室内換気徹底、実技の分散実施、多人数授業におけるグループ分け



等、の取組を行ったうえで、遠隔授業と対面授業を併用して実施していくことになりました。

同大学では「今後も引き続き感染拡大防止と学生の学修機会確保の両立に努めてまいります」とコメントしています。

8月～9月の記録

- 【陸上競技部】
 - セイコーゴールデンランプリ陸上2020東京 (8/23 東京/国立競技場)
 - ▽女子 走幅跳 4位 山本 渚
 - 天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 (9/11～13 新潟/デンカビッグスワンスタジアム)
 - ▽男子 1500m 1位 小林 青
 - 三段跳 3位 岩崎 孝史
 - 砲丸投 6位 阪上 拓真
 - 十種競技 7位 井邊 光郁
 - ▽女子 5000m 1位 中島 紗弥
 - 走幅跳 1位 山本 渚
 - 円盤投 6位 田川 浩子
 - やり投 7位 永山 莉子
 - 第48回九州学生陸上競技選手権大会 (9/18～20 福岡/久留米総合スポーツセンター陸上競技場)
 - ▽男子 走高跳 1位 大塚 流華
 - U20全国陸上競技大会・混成競技 (9/26～27 長野/長野市営陸上競技場)
 - ▽男子 十種競技 4位 山崎 時弥
 - ▽女子 七種競技 4位 秋尾 佳恵
 - 【男子バレーボール部】
 - 2020九州大学ビーチバレー男子選手権大会 (8/22～23 鹿児島/鹿屋体育大学ビーチバレー場)
 - ▽男子 1位 山下、八木
 - 第32回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会 (9/5～6 兵庫/大蔵海岸公園海水浴場)
 - ▽男子 2位 山下、八木
 - 【サッカー部】
 - 2020年度九州大学交流サッカー大会 (8/29～9/19 福岡/福岡大学サッカー場 他)
 - ▽男子 1位 鹿屋体育大学

- 【自転車競技部】
 - 2020年九州地域自転車競技大会 (8/22～23 福岡/久留米競輪場)
 - ▽女子 スクラッチ 1位 成海 綾香
 - 2020全日本学生個人ロードレース大会 (9/5 群馬/群馬サイクルスポーツセンター)
 - ▽男子 個人ロードレース 3位 重満 丈
 - 2020全日本学生トラック自転車競技大会 (9/12～13 福岡/泉崎国際サイクルスタジアム)
 - ▽男子 タンデム・1kmタイムトライアル 6位 高良 下山
 - スプリント 4位 真鍋 智寛
 - 6位 岸田 剛
 - ▽女子 インディヴィデュアル・パーシュート 4位 石上 夢乃
 - 【カヌー部】
 - 令和2年度SUBARU日本カヌースプリント選手権大会 (9/9～13 石川/木場潟カヌー競技場)
 - ▽男子 K-1 200m 8位 橋沼 新
 - K-1 500m 5位 下川 拓樹
 - 7位 内田 海斗
 - 2位 安藤 内田
 - 5位 下川 佐々木
 - 3位 田中 智貴
 - 4位 岩永 紘明
 - 5位 岩男 凌
 - 7位 吉田 俊吾
 - 1位 田中、岩永
 - 4位 石川、北崎
 - 1位 原田、池口
 - 2位 横山、岩男
 - 3位 原田、池口
 - 3位 溝口、高野
 - 3位 林田、高野
 - ▽女子 WK-2 200m
 - WK-2 500m
 - 第56回全日本学生カヌースプリント選手権大会 (9/19～22 石川/木場潟カヌー競技場)

- ▽男子 K-1 200m 1位 橋沼 新
- K-2 200m 5位 下川 佐々木
- K-4 1000m 4位 安藤、内田、下川、佐々木
- C-1 200m 2位 岩男 凌
- 4位 鈴木 涼太
- 5位 吉田 俊吾
- 8位 高比良 海斗
- C-1 1000m 1位 田中、岩永
- 4位 石川、北崎
- 2位 下屋敷、横山
- C-2 200m 3位 原田、池口
- C-2 1000m 2位 下屋敷、横山、高比良、吉田
- C-4 1000m 2位 下屋敷、吉田、高比良、池口
- C-1 Relay 4×500m 2位 林田 薫
- ▽女子 WK-1 500m 2位 溝口、高野
- WK-2 200m 3位